

---

# 男女共同参画社会推進状況調査

グループインタビュー実施報告書

---

令和3年3月

---

# I 実施概要

## 1. 目的

日立市男女共同参画計画の策定に向けた基礎的資料とするため、家庭や子育て、教育、就業分野等の属性を対象にグループインタビューを実施した。

## 2. 実施対象及び日時

日時	基本的な属性
令和2年10月27日(火)	大学生
令和2年10月27日(火)	事業者(中小企業等)
令和2年10月29日(木)	地域活動をしている人(コミュニティ活動をしている男女)
令和2年12月2日(水)	女性活躍をサポートしている人(放課後児童クラブ支援員等)
令和2年12月4日(金)	働いている女性(起業経験を持つ女性)
令和2年12月9日(水)	子育て中の女性
令和3年1月18日(月)	子育て中の男性

## 3. グループインタビューの実施方法

グループインタビューは、全体で1時間程度、受託者の進行により自由討議形式で実施した。内容については、共通テーマの他、属性を考慮し設定した個別テーマでも行った。

なお、調査実施時期においては、新型コロナウイルス感染症に伴う影響もあり、リモート形式でのインタビューも一部併用した。

表－実施方法

項目	内容	時間	担当
開始前	プロフィール記入 ※用紙<コンサル準備>	5分程度 (開始前)	コンサル
開会・挨拶	挨拶・趣旨説明 ・日立に住む男女の生活と意識の調査にあたり、男女共同参画や生活に関わる団体を対象にグループインタビューを実施させていただき、日頃感じている男女の生活と意識等について、忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。 <コンサル紹介>		市
	進め方説明 ・事前に配布した準備シート、意識調査結果にしたがって、日頃感じている男女の生活と意識に関する現状や課題等について伺ひます。 ・まずは、簡単に自己紹介の記入をお願いしませう。<プロフィール記入シートの配布>		コンサル

インタビュー	<input type="checkbox"/> 意識調査の概要について説明 <input type="checkbox"/> 意識調査のテーマに沿ったヒアリング ※自由討議形式で進行 【共通テーマ】 (1) 男女の地位や役割に関する現状と意識について (2) 子育てや家庭生活、地域活動における男女の役割について (3) 働き方、キャリア形成について (4) 女性の活躍について 【個別テーマ】 ・グループ別のヒアリングポイント参照	60分程度	コンサル  ※行政に質問などがあった場合は市で対応
閉会	今後の予定等 ・インタビュー結果の概要は全体が終わった後にまとめて、広報やホームページ等で報告します。	5分程度	市

表ープロフィール記入シートサンプル

プロフィール記入シート			
氏名		年齢	才
お住まいの地区		日立市の居住歴	年
現在の職業		就業形態	自営 正社員 他
男女共同参画に対するイメージ			

表一対象別ヒアリングのポイント

対 象	ヒアリングのポイント
共 通	<input type="checkbox"/> 男女の地位や役割に関する現状と意識について <input type="checkbox"/> 子育てや家庭生活、地域活動における男女の役割について <input type="checkbox"/> 働き方、キャリア形成について <input type="checkbox"/> 女性の活躍について
子育て中の女性	<input type="checkbox"/> 女性が社会活動をする事について <input type="checkbox"/> 女性の就業について <input type="checkbox"/> どのような社会参画が理想か <input type="checkbox"/> 仕事(社会活動)を選ぶとき自分が優先する条件について <input type="checkbox"/> パートナーの家事・育児等へのかかわりについて(家族の理解は必要か)
子育て中の男性	<input type="checkbox"/> 女性が社会活動をする事について <input type="checkbox"/> 自身の仕事と生活のバランスについて <input type="checkbox"/> 家事・育児等の分担、理想と現実 <input type="checkbox"/> 家事等を民間サービス等に依頼することについて <input type="checkbox"/> 男性が地域活動に参加するために必要なこと <input type="checkbox"/> 仕事に対する家族の理解について
地域活動をして いる人	<input type="checkbox"/> 男女共同参画は進んでいるか(自身のコミュニティ・市全般) <input type="checkbox"/> コミュニティ活動において、男女の役割の違いの有無 <input type="checkbox"/> 女性の社会活動において、自分の能力に見合った活動をし、評価を得るために必要なことは <input type="checkbox"/> 男女問わず個人の能力を高め合っていくために必要なこと <input type="checkbox"/> 実際に役職をお願いするときの男女の反応に差はあるか
大学生	<input type="checkbox"/> 仕事と結婚についてのライフプランをもっているか <input type="checkbox"/> 女性が働くことについて(専業主婦願望等含む) <input type="checkbox"/> 会社で管理職など責任のある職務につくことへの希望 <input type="checkbox"/> パートナーに、会社等で管理職など責任のある仕事につくことを希望するか <input type="checkbox"/> 学校生活以外で男女の差を感じたことがあるか <input type="checkbox"/> 男女問わず、社会で自分の能力を発揮するために必要なことは何か
事業者	<input type="checkbox"/> あなたの事業所の女性従業員の割合 <input type="checkbox"/> あなたの事業所の女性管理職員の割合 <input type="checkbox"/> 雇用条件による男女の就業希望に差はあるか <input type="checkbox"/> 一般事業主行動計画について <input type="checkbox"/> 女性管理職を増やしていきたいか <input type="checkbox"/> 男女問わず、従業員の育児休業取得について <input type="checkbox"/> 自身の仕事と生活のバランスについて
働いている女性	<input type="checkbox"/> 事業上や起業するにあたって、女性だから苦労したことはあるか <input type="checkbox"/> 女性であることを不利に感じたことがあるか <input type="checkbox"/> 仕事と生活のバランスをどのようにとっているか <input type="checkbox"/> 女性が夢を追って活躍できるためには、どのような環境整備が必要か <input type="checkbox"/> 起業するにあたって家族の理解は必要だったか
女性活躍をサポ ートしている人	<input type="checkbox"/> 自身がこの仕事を選んだ理由について <input type="checkbox"/> 自身が仕事(社会活動)を選ぶとき優先する条件について <input type="checkbox"/> 女性と仕事・家事・育児のバランスについて理想と現実 <input type="checkbox"/> 女性が社会で活躍するために必要な環境整備について <input type="checkbox"/> 子育て支援の現場に携わっていて考える女性の活躍について <input type="checkbox"/> 子どもの安全と女性活躍について

## II 実施結果

### 1. グループインタビュー結果の概要

#### (1) 共通テーマ

項目	意見の概要
□男女の地位や役割に関する現状と意識について	<p>□男女共同参画については、男女が平等であること、家庭での家事や育児の協力、女性の社会参加等をイメージしている。</p> <p>□男女の地位については、年齢によって意識が大きく異なり、若年層になるほど、女性が働くこと、男性が家事・育児に参加すること、男性が育児休暇を取得することについて肯定的な意見が多い。</p> <p>□一方で、女性が子育てをしながら働くための環境づくり、男性の育児休暇取得が進んでいないことなど、社会や勤務先において一層の理解が不可欠という意見も多い。</p> <p>□以前は子どもを連れて銀行に行ったり、出先で授乳することを嫌がられたが、今は協力的になっているといった例も挙げられている。</p>
□子育てや家庭生活、地域活動における男女の役割について	<p>□家事や育児については、年齢によって男女共同参画の認識や取り組みに差があり、高齢層では女性は専業主婦で、家事や育児のほとんどを担ってきた経験を有しているが、若年層になると共働きが増加し、家事や育児について女性が中心ではあるものの、男性も参加する意識を有し、実際に参加している。</p> <p>□男性が参加する家事・育児としては、食事の後の片付け、掃除、子どもの朝の準備、入浴という意見が多く、関わるタイミングや得意・不得意に合わせて分担している。</p> <p>□このような男性の家事や育児への参加については、若年層では、夫婦でお互いの様子を見ながら自然に分担しているという意見が多い。また、高齢層からは、若い人は男女で役割分担しながら家事や子育てを行っているという意見もあった。</p> <p>□若年層（女性）では、夫の仕事が多忙であるため、平日に話し合う時間を取ることが難しいという意見もあった。</p> <p>□男性からは、平日は仕事中心の生活となることから、家事や育児に参加するのは1～2時間程度であるが、休日には、6～7時間とできるだけ参加するようにしているという意見があった。</p> <p>□地域活動においては、子どもを通じた活動が中心で、女性が主体となって活動する面もみられるが、高齢層では男性が退職後に参加しようとする傾向もみられる他、若年層でも学校や地域のことに主体的に向き合う意識もみられた。</p>
□働き方、キャリア形成について	<p>□高齢層では、女性は専業主婦として過ごしてきた経験を持つ対象者が多い。若年層では、共働きが浸透しており、女性の社会参画やキャリア形成についての理解が浸透している。</p>

	<p>□女性は結婚や出産に伴い、仕事を辞めるケースが多く、それによりキャリア形成が中断されるという意見があった。また、結婚に伴い女性が改姓するケースが多いことについても否定的な意見があった。</p> <p>□女性が、子育てが一段落した後に仕事に復帰する場合に、家事・育児と仕事の両立についての不安を持つケースが多い。仕事を始める場合は、子どものことで休暇を取得できるかどうかなどが重要なポイントになっている。</p> <p>□女性が子育てをしながら働く勤務形態としては、フルタイムでの勤務よりも時間の融通が利くパートタイムを選択するケースが多い。</p> <p>□女性の起業は、家事・育児と仕事を両立するための選択肢となりえるが、この場合においても家庭における配偶者(男性)の理解が不可欠であるにもかかわらず、理解や協力が得られにくいという意見も聞かれた。</p> <p>□在宅勤務については、男性が育児休暇を取得しなくても、家事・育児に参加できる環境を形成することにつながっている。男性の育児休暇については、取得促進の取り組みが求められる一方で、男性の立場からは、仕事が溜まったり気になったりストレスにもなるので、在宅勤務がこれらを解消する方法となりえるという意見もあった。</p>
□女性の活躍について	<p>□女性の活躍について、若年層においては共働きという意識が根付いていることから、女性が能力を生かして社会参画することに肯定的な意見が多い。</p> <p>□女性の活躍を進めるための方法としては、女性のポストを作る、リモートワーク等、働き方の柔軟性を上げる、男性の育児休暇取得の推進を求めるといった意見が多くみられた。</p>

(2)個別テーマに関する意見の概要

対 象	ヒアリングのポイント
子育て中の女性	<p>■女性が社会活動をするについて</p> <p>○社会全体が変わらないといけないと思う。男性が仕事を減らしても家庭のことを主体的にやるようにならないといけない。このままだと子育てしづらい世の中で、女性の不満ばかりが募ってしまう。</p> <p>○PTA や地域の活動も、女性が仕事をするときのネックになっている。働きながら地域活動をするのが前提にならないといけない。</p> <p>○共働きになったら、家事負担もしわ寄せは全部女性にくるのが現状なので、キャリアを持つ女性が子どもをあきらめてしまうのは当然だと思う。</p> <p>○女性が自分の夢をあきらめなくて済むように、社会の意識を変えて欲しいと思う。各種政策も年配の男性が作る事が多く、的外れなことばかりだ。子育てをしたことがない人の理解を解いていく必要がある。</p> <p>■女性の就業について</p> <p>○いずれ働きたいと思う気持ちもあるが、家事や子どもの行事などが今の状態では、仕事をするのが難しい。今まで自分が学校で学んできたことを生かし切れていないという思いがあるので、働きたいという気持ちはあるが、家庭が回ら</p>

	<p>なくなるのではないかという不安も多い。何かをあきらめなくてはいけないのかもしれない。</p> <p>○このまま専業主婦でいると、将来年金だけになる。夫に何かあったときは年金だけでは生きていけないので働く必要があると思う。本当は自分自身のキャリア形成のために働きたいが、生きるために働くということになると思う。</p> <p>○子どもがいると、幼稚園から呼び出されて職場に迷惑をかけることもあり、働く母親の立場は弱い。企業側も母親を雇えば安くすむなど、都合よく使われると感じることもあり、母親が働くことは損しているのではないかと思う。</p> <p>■仕事(社会活動)を選ぶとき自分が優先する条件や必要とすること</p> <p>○子どもが帰ってくる時に家にいるためにはパートで働くしかない。子どもを中心に考えるとそのような仕事になる。</p> <p>○好奇心が大切だと思う。</p> <p>○時間的な拘束と賃金面。賃金にこだわらなくても良いならボランティアもあるが、やはりお金。それにこだわらなければやりたい仕事はある。</p> <p>○勤めると時間が自由にならないので、趣味や特技を生かした個人事業主がいいが、どうしたらなれるのか道筋が分からない。起業方法を教えてくれる機会に簡単にアクセスできるようになればいい。</p> <p>○病児の保育について、保育園と病院が連携してそこで預かってくれるサービスがあればもっと女性は働きやすくなる。</p> <p>○誰でも何かしら好きなものはあるので、それが生かせる場所があるとよい。やりたいことを母親になってもあきらめないでできるところがあればいい。</p> <p>○組織の寛容性があればいいと思うが、制度化すると難しいこともある。</p> <p>■パートナーの家事・育児等へのかかわりについて (家族の理解は必要か)</p> <p>○夫が遅くまで仕事をしているので、多くを頼むことができない。お願いできる家事が限定される。例え自分が仕事を始めても、夫の働き方が変わるわけではない。仕事の上に今までの家事・育児が上乘せされる感じだ。</p> <p>○家事や育児の他に、幼稚園の準備物や回覧板、在庫管理(名もなき家事といっている)などもあるが、夫はそれを家事と認識していない。夫から買い物を頼まれることがあるが、負担に感じることもある。夫はそれを家事と思っていないので認識の違いがある。</p> <p>○夫婦で情報を共有できているか疑問。忙しすぎて話せる時間がないのが現状。</p>
子育て中の男性	<p>■女性が社会活動をするについて</p> <p>○これからは男性だけが働くという時代ではないので、女性が外で働くことは良いと思う。それには育児と仕事の両立への相互協力が不可欠。</p> <p>○女性が社会で活躍することは賛成。優秀な人はどんどん活躍すべき。日本を豊かにするために必要だ。そのための仕組みや社会の雰囲気を作る必要がある。</p> <p>■自身の仕事と生活のバランスについて</p> <p>○働き方改革が推進されている。会社としては年休取得を推進している。ただ、職種、上司、職場の雰囲気で状況が異なるとも思うので、まだ改善するところはある。</p>

	<p>○在宅勤務も含めてフレキシブルになっている。育児休暇については、仕事が気になることも自分にとってはストレスになるので、在宅という形で仕事をやりながら育児に携わった方がいい。仕事と家庭のバランスという意味では在宅勤務ができるようになったことはいい方向だと思う。</p> <p>■在宅勤務のデメリット</p> <p>○チームで仕事を行っている、コミュニケーション不足から効率が下がってしまうこともある。結果として残業になることもある。</p> <p>○公私の時間が曖昧にならないように気を使う。妻は自分が家にいると家事を頼みたくなるようだが、認識の違いをすり合わせる必要がある。</p> <p>■家事・育児等の分担、理想と現実</p> <p>○家事はやれる範囲でやっている。自分は片付けや洗濯が中心。得意不得意があるのでできるところをやっている。育児は積極的に携わっているし楽しい。</p> <p>○平日は仕事があって難しいが、最近は在宅勤務が増えたので、家事の分担もそのつど話し合っている。</p> <p>○休日は子どもの面倒を見るようにして、妻にリフレッシュしてもらえているようにしている。</p> <p>■行政サービスについて</p> <p>○保育園探しに苦労している。市のホームページには、認可外保育園の情報が無い。保育園として情報が網羅されているとありがたい。</p> <p>○各自治体で保育園やおむつ代など無料になるサービスがまちまちだ。県や国レベルで統一してもらえると良い。</p> <p>■家事等を民間サービス等に依頼することについて</p> <p>○利用しようと思っている。サービスの幅を拡げて欲しい。基本的には料理や掃除のサービスなどを利用したい。</p> <p>■男性が地域活動に参加するために必要なこと</p> <p>○あまり活動が盛んな地域ではなく、学校の役員程度。具体的な内容が分からないので不安もあり、情報があるとよい。</p>
<p>地域活動をしている人</p>	<p>■男女共同参画は進んでいるか(自身のコミュニティ・市全般)</p> <p>○地域活動については目標に近づいていると思う。地域活動では男女差は感じない。地域活動はその人の持っている力で行っているが、それ以外の社会的な場面、家庭生活、子育て、会議、仕事の中では男女差があると思う。</p> <p>■コミュニティ活動において、男女の役割の違いの有無</p> <p>○「誰が」より「何を」言っているかを大切にしているので、男性だからできて女性だからできないということはない。</p> <p>○地域で活動して驚いたのは男女格差がないこと。女性が上役で仕事を進めても誰も文句も言わないし、女性がテキパキ働いていて男女差はないと感じた。退職後に地域活動に携わったが、活動を始めて日が浅いので、地域で活躍していた女性たちから学ぶことが多い。</p>



	<p>■男女問わず個人の能力を高め合っていくために必要なこと</p> <p>○環境が大切。職場や家庭、その中でも特に理解が得られないのが家庭。周りの人の理解がないと能力がある女性も力を発揮できない。職場であれば正しい評価をすることが必要。評価されなかったり理解が得られないと能力が沈んでしまう。また、本人も意識を高く持つことが大切。できない理由を探すのではなく、やっていく方法を考える。</p> <p>○決めつけないことが大切。教わりながら、面白がりながらやる必要がある。相手を思いやるとともに、一方に家事負担がかかると大変になるので、そこを男の人は理解する必要がある。</p> <p>■実際に役職をお願いするときの男女の反応に差はあるか</p> <p>○女性は「私は…」と言って断る人が多い。お願いしても「はい、分かりました」と二つ返事ではいけないのだが、説得をしてやってもらえるようにしている。地域をこんな風にしたという理想を共有することがポイントだと思う。任せたら細かいことは言わないようにしている。</p> <p>■その他</p> <p>○定年後に地域活動に参加しようということを会社で教えてもいいと思う。知識があれば地域活動に一步踏み出すことができ、年齢を重ねても男女共同参画が実現できる機会となりうる。</p> <p>○男性が介護をするときに情報が入りづらい。介護の仕組みや情報の取り方などを元気な時から学ぶことが、男女共同参画のためには必要なのではないか。</p> <p>○妻がコミュニティ活動をすることにより、夫が地域に顔を出すようになる。そのような地域に携わる環境は大切だと考えている。</p>
大学生	<p>■学校生活以外で男女の差を感じたことがあるか</p> <p>○アルバイト先や親戚との会話で、「男は社会に出て、女は早く結婚すればいい」、「女性だから力仕事をやらなくていいよ」といわれたことがある。</p> <p>○結婚すると女性が苗字を変えることが多い。</p> <p>■仕事と結婚についてのライフプランをもっているか</p> <p>○卒業後4～5年は働きたい。結婚しても保育士を続けたいが、結婚したらフルタイムでなくパートタイムで働きたい。</p> <p>○経済的な不安もあるのでフルタイムでずっと働きたい。</p> <p>○子どもを持つことは制約になる。子どもを持つ＝幸せではない。</p> <p>■女性が働くことについて(専業主婦願望等含む)</p> <p>○女性が仕事をやりたいということに対して否定することは良くない。</p> <p>○私たちの年代からすると、男だから働くとか、育休を取らないという社会の仕組みはおかしいと思う。</p> <p>○金銭面では、結婚して子どもを産んでも働かないといけない。</p> <p>○女性は社会的地位が低いので、できる仕事に限られると感じる。</p> <p>○自分のやりたいことや買いたいものもあるので、働いていた方がいい。</p> <p>○基本は仕事をしたいが、若干専業主婦の期間もほしいと思う。自分の好きな事に没頭する時間もほしい。</p>

	<p>■会社で管理職など責任のある職務に就くことへの希望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分がやりたいと思えばやるかもしれないが、協力者がいることが不可欠。</li> <li>○認めてもらえたことが嬉しいので受けると思う。自分の地位が上の立場になり、発言力を増して現在の環境を変えていくという方法もある。</li> </ul> <p>■パートナーに、会社等で管理職など責任のある仕事につくことを希望するか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相手が望むなら別だが、職業上の地位はあまり当てにしていない。休日家族サービスができるくらいがいい。</li> <li>○結果的に地位が向上するのはいいが、家庭や子どもを顧みないのは望まない。</li> <li>○主夫になることについても偏見はない。</li> </ul> <p>■男女問わず、社会で自分の能力を発揮するために必要なことは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リモートワークのような働き方ができれば家事と育児が両立できる。</li> <li>○もっと会社を作りやすい社会になればいいと思う。</li> </ul> <p>■就職先を選んだ理由について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○都内に就職する。日立市が嫌だというわけではないが、給料やしがらみを考えて都内を選んだ。どこか違う場所に行った方が、別の自分を見つけられるのではないかと感じた。</li> </ul>
<p>事業者 (中小企業等)</p>	<p>■あなたの事業所の女性従業員の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○製造業。工場は男性中心だが、販売・営業は女性が半数ほどいる。</li> <li>○コンビニエンスストアで8割ほどが女性。</li> </ul> <p>■あなたの事業所の女性管理職員の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経験などを考慮して営業部長を親族以外の女性にお願いしている。</li> <li>○コンビニエンスストアの店長の半数は女性。</li> </ul> <p>■雇用条件による男女の就業希望に差はあるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職人なので昔は男性が多く男女差があった。現在は、女性が増えてきていると感じる。現場の仕事なので、休憩時間に車を一台使えるようにするなど配慮している。</li> <li>○女性が多い職場なので、女性に男性が合わせることも多い。女性が活躍している職場だと思う。</li> <li>○これからの働き手を確保するためにも、女性が働きやすい環境づくり、女性に選ばれるような会社にすることが大切だ。</li> </ul> <p>■一般事業主行動計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○聞いたことがある程度で詳細は分からない。</li> </ul> <p>■女性従業員を増やしていきたいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○増やしたい。これから人口減少になるので、男女で分けることができない。</li> <li>○主婦の方の仕事のレベルが高い。仕事ができるし細かい対応もできる。</li> <li>○菓子製造をしているが、感性が大切な仕事なので、女性でもやる気があれば支援する。</li> <li>○女性の職人を増やしたい。女性は繊細で作業がきれい。女性の得意な分野があると感じる。</li> </ul>

	<p>■男性従業員の育児休業取得について</p> <p>○男性1名の取得事例があった。申し出ではなくこちらからモデルケースとして取得を促した。</p> <p>■仕事と生活のバランスについて</p> <p>○仕事の内容から、天候等にも左右されやすい職種なので、仕事中心にならざるを得ない。</p> <p>○仕事を中心ではあるが、地域が良くなると暮らしやすくなるので、各種の団体に活動するようにしている。</p> <p>○男女問わずそれぞれの考えがある。一つ一つ実現できるようにするためには、多様性のある社会が必要。昔よりも制約が多く働きづらくなっている。雇うほうも働くほうもやりづらいのではないか。労働時間も青天井で働けず、ワーク・ライフ・バランスという名の下で平均化されると、多様性がなくなり個人の夢が実現できなくなるのではないか。働き方を選べる社会になる必要がある。</p> <p>○多様性を持って働けるように意識している。特定の人ばかりに負担がいかないようなシステム作りは必要。</p> <p>○単に制度を守らせるだけでなく、働きたいという意欲とのバランスが必要。</p>
働いている女性	<p>■起業の動機、女性の起業について</p> <p>○起業の動機は、会社に勤めることが物理的に難しくなること、自分のやりたいことで起業するという2パターンがあると思う。年代としては20歳代後半から40歳過ぎくらいが多い。</p> <p>○職業人としての正義とママとしての正義がぶつかる。仕事の時間が延びたりすると、保育園や預かっている人に対して謝ることになるし、子どもには「遅くなって」と言われる。小さいことではあるけれど、毎日言われると辛い。そういうことから物理的に預けることが難しくなったら仕事はできない。</p> <p>○ライフステージごとに女性は状態が変わるので、創業することもできるし、しないこともできる、働くこともやめることもできるというカードを持っているとメンタル的にいいと思う。</p> <p>○まずやってみることが大切。また、自分の時代はこうだったよと世代の離れた人に押し付けないことが大切。</p> <p>■起業にあったってあるとよい支援</p> <p>○商工会議所のセミナーがきっかけになって踏み出すことができた。学べる場所があることが大切。</p> <p>○行政からの支援は手厚いと思うが、情報をキャッチする手段を整えることが大切。若い人向けにはSNSを活用してくれると、情報を取りやすい。</p> <p>■女性であることを不利に感じたことがあるか</p> <p>○今でも家事の分野で男性が家事をやるのは加点になるが、女性が手伝ってもらうのは減点というイメージがある。</p>

	<p>○ネットニュースで、出産、結婚などのママを支えるのに、40～50歳代にしわ寄せが行っているとあった。その世代は昭和の世代で現場に出ていたが、今はママのサポートに回っていて負担が多いという。</p> <p>■仕事への復帰について</p> <p>○出産した後は家にいて子育てをしてというのが当たり前なのかもしれないけれど、子育てのため仕事をやめることに罪悪感を覚える人もいるので、戻れるのが当たり前だという環境ができればよいと思う。</p> <p>○学生の時には男性と同じ勉強をしているのに、女性だけが子育てでキャリアが切れるのは理不尽であると思ったこともある。今は子どもを産んでみるのも仕事のブランクができるのもキャリアだと思えるようになった。</p> <p>○採用時の面接で、子どもを預けられるか聞かれる母親が多い。そう聞かれると、ここでの採用はないなと感じてしまう。人員配置の事も承知しているので企業の立場も理解できるが。</p> <p>■女性が夢を追って活躍できるためには、どのような環境整備が必要か</p> <p>○やってみたいと思った時にそのままにせず誰かに話すこと。アイデアを浮かんだままにせず、小さいことから形にしていく。無理せずやってみる。いきなりではなく小さなところからチャレンジするということが大切。</p> <p>○職場に保育所があって、身近なところで子どもを預けられると良いのではないかな。私自身正社員として働いたことがないので分からないが、近くに保育園があって子どもが近くにいると安心だと思う。</p> <p>■起業するにあたって家族の理解は必要だったか</p> <p>○夫が仕事を理解して家事をやってくれ、協力的である。支援してもらえるとうまくいく。夫の協力を見て子どもも理解をしてくれるようになる。</p> <p>○家庭を上手に回せていないが、祖父母が子どもを可愛がってくれ、夫も家事ができるので出かけることができる。色々な大人がサポートし、1人に負担を押し付けない、1人にならないことが大切。</p>
<p>女性活躍をサポートしている人</p>	<p>■自身がこの仕事を選んだ理由について</p> <p>○週3日程度の勤務であり、社会復帰のハードルが低かった。</p> <p>■自身が仕事(社会活動)を選ぶとき優先する条件について</p> <p>○勤務時間や日数などで家事・子育てが無理にならないこと。本格的に働いて体調を崩した友人もいたため。</p> <p>○夫の協力が得られないので、家事や地域活動を全部自分主体にやって、そのうえでその仕事ができるかを基準とした。</p> <p>■今の子育ての状況</p> <p>○息子の家は、奥さんも働いているので自分が時々サポートに入っている。今の人は共働きが当たり前になってきているので、家事を分担し夫婦が参画しながら行っていると感じている。</p> <p>○児童クラブの親の様子を見てみると、送迎など役割分担をしていたり、祖父母に協力してもらいながら上手に時間を使っている。今の世代は自立をしてしっかり基盤を作っていると感じる。</p>

○父親が参画していると感じる。学校でおやじの会を立ち上げたが、1回目よりも2回目に携わった時の方が参加率は高かった。

■女性が社会で活躍するために必要な環境整備について

○ハードルを低くすることが重要。女性が働くときは自分の体調や子どものことで休めるかがポイントとなる。それが言える環境であると良い。無理は禁物。フルで働ける人はとっくに仕事を始めている。ハードルがあるから働けないているのだから、そこをクリアしてあげることが大切だ。

■子育て支援の現場に携わっていて考える女性の活躍について

○地域での活動が、女性が本格的に社会復帰するときの準備のような位置付けになればよい。

○地域では女性役員が少ないことが課題として挙がっており、女性の登用は意識している。

○児童クラブ等は、身内ではない地域の大人が子どもに関わるというところで、子どものメンタル面での愛情の受け皿となりえると考えている。

■子どもの安全と女性活躍について

○放課後子ども教室のような制度は、保護者が働いていなくても子どもが来ることができる場所として位置付けられている。国が整備してくれるので、親は安心して社会活動できるようになると思う。

○子どもたちの居場所は作るけれど、子どもにとっては家庭が大事ということを親には理解して欲しい。